

重点領域:協力事業の推進

重点目標	総合目録ネットワーク事業を推進するため、平成21年度までに都道府県域内のネットワークを統合検索する機能をシステムに備えるとともに、円滑な相互貸借の支援を行う。				
評価	進ちよく	⊘	成果	×	
	<p>・総合目録ネットワークシステムに都道府県域内の目録ネットワークを統合検索する機能を持たせるといふ中期的な方向性を平成17年度に取りまとめ、平成19年度も、その方向性に沿ってシステム改修のための検討を進めました。</p> <p>・しかし、検討の結果、次期システムに関する調査の結果などを勘案すると、統合検索機能を実現することは難しいとの結論に達しました。当館および県域における総合目録ネットワークのコスト負担が大きくなること、スケジュール的に困難であることが主な理由です。そのため、平成19年度中の策定を予定していた総合目録ネットワーク事業中期計画は策定せず、平成20年度以降、総合目録の機能要件を改めて精査した上で、新たな中期計画を策定することとしました。</p> <p>(参考) 現行システムによる提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年2月に、事業実施要項、参加規定および募集要項を改定しました。募集要項の改定によって、新規参加館の募集が、年度単位ではなく、常時参加申請ができるようになりました。 データ提供館が3館増え、兵庫県立図書館などの蔵書が検索対象となりました。 平成19年9月～10月に東京本館・関西館で行った「国立国会図書館データベースフォーラム」において、総合目録ネットワークシステムの紹介を行いました。 				
実績値	指標名		平成17年度	平成18年度	平成19年度
	(参考) 現行システムによる提供実績	データ提供館(館)	56	58	61
		累積総書誌件数(件)	3,194万	3,370万	3,717万
		検索(件)*	52万6,000	152万9,000	83万3,000
*平成18年度にはロボットによる大量アクセスの件数を含む。					
今後の取組み	<p>・国立国会図書館業務システム最適化計画(平成20年3月)に則り、総合目録ネットワークサービスのあり方を検討します。検討は、必要に応じて国内の図書館ネットワークや参加館のシステムについて調査し、参加館の理解を得つつ行います。</p>				

